



# 第45号

発行・編集：福祉のネットワーク永山

事務局：(社福) 多摩市社会福祉協議会

TEL：042-373-5616

令和4年6月

## 福祉のネットワーク永山だより

～誰もが安心して暮らせる地域を目指して～

### コロナ禍でできることに知恵を絞る

第1回 福祉のネットワーク永山定例会  
「コロナ3年目の各地域の取り組み」  
諏訪地区市民ホール 5月14日(土)

多摩市永山の地域福祉推進委員会「福祉のネットワーク永山」の令和4年度第1回定例会が「コロナ3年目の各地域の取り組み」をテーマに開かれました。自治会・管理組合、サロン、事業所などから約30人が参加し、各地域、団体で

昨年から今年にかけて取り組んでいること、取り組もうとしていることについて発表をしていただき、コロナ禍の状況下でもできることは何かを考えるための情報共有と意見交換を行いました。

定例会に先立ち、社会福祉協議会が参加団体を対象にコロナ禍で「コロナ禍の活動で悩んでいること」、「できなくなった活動」、「再開・チャレンジしようと思う活動」、の3点について事前にアンケート調査を行い、その結果を踏まえて意見交換をしました。

#### 夏祭り等イベント

夏祭りや盆踊り大会などのイベントが2年連続で中止になっている。



コロナ3年目の今年は、何とか工夫して、一部変更しても再開したい！

バーベキュー大会、もちつき大会、お祭り…。まず屋外のイベントについて感染対策をしっかりと始めてみたい。



今回はやぐらを立てないなど、無理なく、まずは再開すること！徐々に元の形に戻ると良いなあ…

#### サロン等居場所活動

楽しみだった会話を減らして、体操のメニューを増やしたり、生け花など会話の少ない活動を取り入れてみたり…

対面でお話ができないときには、LINE動画を利用して活動を続けました。



#### こんな時こそ！地域で連携



コロナ禍で自宅に引きこもる高齢者が増えた中、ネコサポと連携し、団地に月1回出張し、困りごとに応じてもらっている。

自分で相談できないとき、代わってご近所の方が相談するケースもある。



コロナ禍では、地域活動も例外なく制約を受けますが、それを乗り切るための知恵を絞ることで、新たな取組やつながりが生まれているようです。必要な対策を講じながら、取り組みを進めていきたいですね。

令和3年度 第6回定例会  
「活動の振り返りと令和4年度の取り組み」  
諏訪地区市民ホール 3月18日(土)

令和3年度最後となる、第6回定例会では、1年間の活動を振り返るとともに、令和4年度に向けて課題を話し合いました。地域の少子化・高齢化が進んでいることから、「交流・居場所」「見守り」「支えあい」が主なテーマとなりました。

#### ◆課題や意見◆

- ・女性は比較的地域とつながりやすいが、男性は閉じこもりがち。活動の場はあるのか？
- ・若い世代に活動を引き継ぐのも遠慮がある。
- ・高齢化が進み、自宅で一人で亡くなるケースがある。
- ・一人暮らしの高齢者は夜間に玄関灯をつけるといい。朝になって消えていれば、お元気であることがわかる。
- ・ウォーキングの途中に子どもの様子を気にかけてもらえるだけで安心感につながる。

#### 【令和4年度のテーマ(予定)】

- ・事例を通して見守りを考える
- ・男性の活躍の場
- ・地域に住み続けるために  
～介護保険でできない生活支援～
- ・子どもの現状と居場所

## 多摩こども郷土資料館

## 地域活動のご紹介♪



新選組隊長、近藤勇の陣羽織や免許皆伝書、江戸時代の関戸村(現・多摩市関戸)の画家、相澤五流の作品などを展示した、多摩こども郷土資料館が永山駅から徒歩で約10分の永山2丁目にある。濱田正喜さん宅の土蔵風の一室だ。玄関の右横の部屋が資料の展示室になっている。

50年前、多摩ニュータウン開発に伴い、近隣の畑地や住宅地が新しい鎌倉街道として整備された際、濱田家も移転せざるを得なくなり、家を建て替えた。その際、旧宅にあった資料を整理処分しないで新築の家に資料館をもうけて保存したのだという。以前は小学校が課外授業で子どもたちに資料館を見学させた。最近は見学経験のある子どもたちが大人になって自分の子どもを連れてくるようになってきている。子どもに見に来てもらいたいのが濱田家の意向だ。入館は無料だが、個人宅であり訪れる際は電話(042-374-2883)か手紙で予約が必要だ。

### <ま・ち・か・ど>

永山北公園の時計塔下にある花壇のお世話をしているのが「フラワーキッズ」という団体である。現在の会員は6名で、最高齢は80歳代でお花に限らず豊富な知識をお持ちで大変重要な戦力となっていると代表者の方に伺った。

花は6月と11月の年2回、多摩市からの配布苗120ポットほど植えている。また、化学肥料はほとんど使わず“ダンボちゃん”を使用し環境への配慮も心掛けている。この活動は自分たちの子どもが小さい頃から始め、それなりの年数がたったが、通りがかりの方から「あらきれいなね」などと褒められるのがうれしくて今まで続けられてきたし、これからも続けたいと思っている。

花壇は公園内にあるため、ボール遊びによる被害も少なくないが、公共施設であり利用者同士共存するという考えで活動しているとのこと。

